



谷本 勝俊 議員

バイオマス等の地域資源の活用促進について

問

今後、地域の特性を生かした活用システムの構築を含め、バイオマス等の地域資源の総合的な活用の促進を図っていくことが重要であると思う。

特に、農林業面でのバイオマス事業の導入についての見解を伺いたい。

答 中村市長

バイオマスは、動植物から生まれた再生可能な有機性資源であり、農林業分野では、廃棄物系バイオマスとしての排泄物など家畜資源、未利用バイオマスとしての間伐材など、林地残材や稲わらなどの

農作物、非食用部分、資源作物としてトウモロコシやヒマワリなどの油脂資源が利活用を推進するバイオマス資源となっている。

このうち、えひめ中央農業協同組合中山堆肥センターで製造の製材残材の樹皮と、養豚等の家畜排泄物を利用したパーク堆肥普及に対して、市単独事業として購入助成を行っており、昨年度は、二二三三戸の農家が四八ヘクタールの農地に対して七三八トンの堆肥を投入し、土づくりを推進した。引き続き本事業を通じてバイオマス資源の有効活用を進めたい。

また、双海地域において水産加工施設の熱利用エネルギー転換を図る目的で、間伐材等のペレットを利用した木質バイオマス熱利用事業化※FS調査を実施し、昨年度報告書をまとめた。割高な資本整備、高い運用コストといった課題が解決された段階で、事業化の可能性に向けた検討を進めたい。

資源作物を利用したバイオマスは、平成十六年度から県で菜種、ヒマワリ等の油糧作物の生産からバイオディーゼル燃料の製造、油糧作物の葉、

茎等の廃棄物の循環利用を一体的に推進する「愛媛バイオマスエネルギープロジェクト」を進めている。本年度は、四市町がモデル地区となっている。



収穫されるヒマワリ

本市では、モデル地区ではないものの、このプロジェクトの一環として、昨年度から伊予農業高等学校を中心とした「ヒマワリプロジェクト」が進められている。このプロジェクトは、県農政普及課伊予農業指導班、えひめ中央農業協同組合等関係団体の協力を得て、上吾川地区の休耕地を利用し、栽培したヒマワリ油を利活用した食用油バイオディーゼル燃料の製造に取り

組み、バイオマス利活用の普及、啓発が図られている。

市では、この「ヒマワリプロジェクト」に参画し、ぐんちゅう保育所・郡中小学校の校外活動の一環として、ヒマワリの定植、栽培に参加するなど取り組みを進めている。

今後、採算性など事業化には問題があるが、県伊予農業指導班等関係機関と連携し、農林分野でのバイオマス利活用の実現に向け検討したい。

※FS調査・事業化可能性調査

コミュニティバスの運行について

問

現在、過疎地をつなぐ交通手段として、伊予鉄南予バスの運行による通学・通院等やスクールバス及び福祉バスの運行等、目的・手段によってさまざまな交通機関を運行している。

今後多様化する乗車ニーズに因應するためのコミュニティバス導入を考えてはどうか。

答 中村市長

コミュニティバスは、過疎地域の方々が安心して生活を進めるためにも、過疎地域の活性化にとっても大変重要であると認識している。

高齢化がますます進行していく中で、今後市内全域を対象としたコミュニティバスの運行についても、公共交通機関の利用促進やタクシー等民間への配慮をしながら、費用対効果を十分に考慮し、あわせて現状の利用状況等も勘案しながら、前向きに検討したい。

その他の質問事項

- ・鳥獣被害対策について
- ・少子化対策について
- ・学校エコ改修と環境教育事業について